

アルゼンチン北西部でカンキツグリーニング病の媒介昆虫を確認

[FreshPlaza 2024年9月3日](#)

アルゼンチン国立農産食品衛生品質庁(SENASA)は、北西部トゥクマン州の柑橘類農場で、カンキツグリーニング病(黄龍病、HLB)の媒介昆虫であるミカンキジラミの存在を確認した。この検出は、既に生鮮レモンの輸出や加工品の減少によって影響を受けている柑橘類セクターに警鐘を鳴らした。北西部柑橘類協会(ACNOA)のパブロ・パディージャ会長は、これは2014年以来このセクターが直面した最も深刻なシナリオであると述べた。

州都サンミゲル・デ・トゥクマン市の南にあるカスピンチャンゴ地域でこの媒介昆虫が発見されたのは、この昆虫がプランテーションで発見された初めての事例であり、治療法が知られていない柑橘類の病害であるHLBの蔓延を防ぐため、SENSASAは管理の強化を迫られた。予防措置は既に強化されており、複数の農業機関や団体で構成される緊急委員会によって調整されている。

トゥクマン州では懸念にもかかわらずHLBは発生していないが、アルゼンチンの他の州では発生が確認されている。柑橘類セクターの危機は深刻化しており、生産者らは生鮮果実の輸出が35%減少すると予想している。レモンを収穫するよりも樹上に放置しておく方が負担が少ないため、多くの農場が放棄された状態にある。パディージャ氏は、輸出の減少は、植物検疫要件の厳格化や輸出先国での防疫措置等、複数の要因によるものであると述べた。

現在の状況は、生鮮果実で起こったことと同様に、レモン由来の加工品の市場でトゥクマン州が重要性を失うことを示唆している。パディージャ氏は、この危機に立ち向かうためのコンセンサスの形成と戦略の実施を提唱し、このセクター、特に生産者や小規模梱包施設所有者の損失が増えることを避けるために迅速に行動する必要性を強調している。

アルゼンチン国立農業技術研究所(INTA)のファミージャ試験場の調査は危機を反映しており、2024年シーズンには、トゥクマン州の柑橘類栽培面積が前年比7.52%減少したことが示されている。この減少は州内のいくつかの郡で見られ、柑橘類セクターの憂慮すべき傾向を示している。パディージャ氏によると、このセクターは、世界の飲食料品業界で高い需要のある加工品の生産に向けて再転換する必要がある。

出典: tucumannoticias.com.ar

中国 台湾産ザボンの移入再開へ

[FreshPlaza 2024年9月3日](#)

中国税関総署(GAC)は、月曜日(2日)からの台湾産ザボン(文丹)の移入再開を発表した。この決定は、この柑橘類からの検疫害虫の検出に伴う2022年8月3日からの移入の一時停止に関するものである。GACは、台湾の果実生産者らが実施した是正措置の包括的評価を実施し、それが移入禁止の解除につながった。

本土市場に再参入するには、ザボンは公式に登録された果樹園と梱包施設から出荷されなければならない。これらの施設のリストはGACの公式ウェブサイトで見ることができる。

中国国務院台湾事務弁公室の陳斌華報道官は、元々の移入停止は中国本土の生物学的安全と消費者の健康を保護するための措置であったと強調した。ザボンの移入再開を求める声は、国民党(台湾の野党)の傅崐萁氏や花蓮県の代表者など、台湾の一部の個人や公人の間で特に強くなっていた。これらのグループは、品質管理を向上させ、中国本土での消費用に指定されたザボンの安全性を確保するために努力してきた。陳報道官は、移入再開の決定は、花蓮県の業界が文書で示した改善内容にも影響されたと指摘した。

中国本土は「兩岸一家親」(兩岸は一家族)の精神を掲げ、台湾の草の根コミュニティの福祉を支援することを目指し、農産物の輸入に関する台湾側関係者との対話にオープンであることを表明した。

出典: ChinaDaily